

祝祭日には国旗を掲揚しましょう

敬神尊皇 黎



明報恩感謝

監修/日刊ひぐらし 〒151-0071東京都渋谷区本町1-30-18-107 <http://www.higurashi.net/> 第0007号
護國青年會議 <http://www.gokoku.net/> 発行人/山本修三 編集人/戸出蒼流 平成16年12月25日

高松宮妃殿下喜久子様のお葬儀を悼み謹んで哀悼の誠を捧げ奉ります

『温かくやさしき母をうばひたる 癌とたたかはむ命のかぎり』18日午前4時42分、中央区の聖路加病院で敗血症のため92才のご生涯を閉じられた高松宮妃殿下喜久様は、昭和53年の歌会始で、お題の「母」をこう詠まれました。妃殿下は、医療・福祉・文化・国際親善など幅広い分野で貢献され、中でも“癌撲滅”のため献身的なご努力を続けてこられました。この日行われる予定だった紀宮様の婚約発表を楽しみになされていましたが、思いもむなくご逝去されました。誠に哀惜の念に堪えません。ここに謹んで哀悼の意を表します。

国防・教育費の削減を憂う

国防に対する大綱が見直されました。人員の削減や予算の削減が憂慮されます。唯一の救いは、中国を牽制する狙いが盛り込まれていたことだけです。島国である我国は国境という



海上自衛隊対空ミサイル

ものが目に見えない現状において海防やミサイル防衛が重要となるのは当然のことです。中国の脅威や旧ソ連の復興を企むプーチンの野望が明白となった今、江戸時代に日本を植民地化から防ぐため蝦夷地の確保を説いた「三国通覧図説」を出版し、更に日本海岸総軍備を論旨とする「海国兵談」などを著して世人を覚醒しようとした「林子平」のような人物の出現が待たれるところです。

また教育費の削減も決定し、日本の未来を担う子孫を放棄したと言っても過言ではありません。かつて我国の教育水準は、江戸時代から特に識字率の高さは群を抜いていたように世界でも5指に入るほどでした。しかし、愚かな「ゆとり教育」により学力の低下、言葉の乱れは目に余るものがあり、日教組のプロパ

ガンダによる廃人教育が施されて国の未来を憂う若者が激減しています。教育とは学問だけに絞った定義ではなく、各人が勉学を通して学問的にも精神的にも切磋琢磨し社会での生活力を養うものでなければならない、と私は考えます。それは国際社会での競争力にもつながることだと思います。しかし日教組は、子供たちの性格や能力や成長力を画一的にとらえ、子供たちの考え方や個性を無視し、日教組の思い通りの均一化した教育をすることにより、危機感などの思考さえできない「小国民」を作ってしまったのです。財源を使用するということは、国民の血税を使うということであり、白痴な政治家や官僚の売名の道具としてはなりません。国防と教育は国家の根幹となるもので、その予算を組むということは国家百年の大計を考えるということです。彼らが自信があるというのなら一度自分の財産を投げ打って真剣に取り組んでみて欲しいものです。

編集部 / 吉田源太

首相の大罪一全ては靖国から始まった

中・韓・朝の我国に対する侮辱、挑発、威嚇行為の全ては、小泉首相の卑屈で曖昧な言動に起因すると言える。例えば温家宝との会談の映像を見れば一目瞭然である。諂うように両手を差し伸べる首相に対して温は片手で握手をしていた。己自信が見下されているのに、ここまで卑屈な態度をとる首相は、まるで去勢された驢馬のようである。

小泉首相は温に“春暁ガス田”に関する情報提供を求めたが、首相の外交能力とセンスの欠如には呆れてモノが言えない。洋の東西古今を問わず、その情報は、秘中の秘であることはあの無法国家の支那である。素直にののだろうか、お目出度にも程がある。源の盗掘や内政干渉、そして同胞の本国民が侮辱されているのは、毅然に起因すると言える。



靖国神社拜殿

資源問題は国家の盛衰に拘ることであり言うまでもないことです。まして相手は情報や資料を提供するとも思っていた支・韓・朝による領土領海侵犯といい、資拉致といい、日本の主権が脅かされ、日とした態度をとれない小泉首相の軽薄さ

敢えて歴史に if を求めるならばの一連の言動こそが小泉純一郎の致命的な過ちであったと思われる。あれほど「何が何でも8月15日に靖国神社に参拝する」と明言しておきながら、いとも簡単に13日に前倒した挙句、昭和7年の村山自虐談話まで踏襲し、更に靖国神社代替施設案を浮上させたことは、日本国民の一人として断じて許すことはできない。「理不尽な要求に屈する日本の首相」というメッセージを無法国家に送ったという点で、小泉純一郎は万死に値する大罪を犯したと言わざるを得ない。

編集人 / 戸出蒼流